
苫小牧市美術博物館 年報

第8号 (令和2年度)

苫小牧市美術博物館
Tomakomai City Museum

苫小牧市美術博物館 年報8号 目次

1	事業報告	1
	(1) 展示事業	1
	(2) 教育普及事業	4
	(3) 資料の収集・保存	7
	(4) 調査・研究活動	8
	(5) 広報・CS向上	9
	(6) 市民協働	9
	(7) 埋蔵文化財の保護	10
	(8) 展示室貸出事業	10
	(9) 大会への参加事業・研修	10
	(10) 市史編纂事業	10
2	入館者	11
3	令和2年度決算	12
	(1) 歳入	12
	(2) 歳出	12
4	令和3年度予算	13
	(1) 歳入	13
	(2) 歳出	13
5	施設の概要	14
	(1) 沿革	14
	(2) 施設見取り図・概要	16
	(3) 組織	17

はじめに

苫小牧市美術博物館《あみゅー》は、2013年7月のリニューアルオープンから本年度で9年目を迎えます。

「樽前山麓と勇払原野の自然と文化」を主軸とする博物館事業に加え、「市民に開かれ」「子どもたちの感性を育む」「文化芸術活動の拠点として」を基本理念とする美術館事業を実施し、各種特別展、郷土に根ざした作家を紹介する企画展のほか、中庭を利用した新進気鋭の作家による屋外展示などを展開して参りました。

博物館時代から実施してきた郷土の自然・考古・歴史に関連する展覧会についても学芸員の調査研究の公表の場として継続するほか、各種教育普及事業も実施しております。

このように多岐にわたり事業を展開できたのも、企業・各館園および研究機関、各種団体・個人の皆様のお力添えのお陰と、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本号では、2020年度の事業内容を記載しております。特別展では「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」を開催し、科学と芸術などの境界を超えた領域横断的な芸術作品および資料を紹介しました。企画展は水の自然に対する理解を深めた「水と生命～川と生き物のつながり～」、八王子千人同心の蝦夷地での事績を紹介した「八王子千人同心と蝦夷地」、ダンボールを素材に動物を制作する造形作家・吉田傑の「紙とアート 吉田傑のダンボールといきもの」、考古資料の色に焦点をあてた「総天然色！考古資料のあざやかな世界」を開催。また、「イクパスイー祈り捧げるものー」や「色と絵～彩のひみつ～」などの収蔵品展、中庭展示など、歴史、考古、自然、美術の各分野を融合した地域色豊かな事業を実施しました。

最後になりますが、当館の運営及び各種展示・教育普及事業の実施にご協力を賜りました皆様、展示監視活動に携わっていただきました登録ボランティア及び美術館友の会事業部の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

苫小牧市美術博物館
館長 武田正哉

1 事業報告

※全て講師名は敬称略、所属等は令和2年4月現在

(1) 展示事業

①特別展

○生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド

令和2年7月18日(土)～9月13日(日) (観覧者数：2,911名)

共催：公益財団法人北海道文化財団

協力：北海道大学情報科学研究院ヒューマンコンピュータインタラクション研究室／クリプトン・フューチャー・メディア株式会社／株式会社ドリームホビー／古趣北乃博物館

後援：北海道／苫小牧商工会議所／苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星

「ロボット」概念誕生の100年を記念して開催した本展では、ロボットが日常生活に浸透しつつある現代の視座から、科学と芸術などの境界を超えて拡がりを見せた領域横断的な芸術作品および資料を紹介し、人間の探求心や夢、そして欲望など、時代の精神が色濃く投影されたヒト型のロボット「ヒューマノイド」について改めて考察した。

(関連行事)

8月22日(土)・8月30日(日) ギャラリートーク (全2回・参加者17名)

8月29日(土) ロボビー動態展示&操作体験

講師：水丸 和樹 (北海道大学大学院情報科学院) (参加者20名)

②企画展

○「水と生命～川と生き物のつながり～」

令和2年5月12日(火)～6月21日(日) (観覧者数：1,115名)

協力：サケのふるさと千歳水族館／札幌市博物館活動センター／北海道大学北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林／北海道博物館／CISEネットワーク

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星
海、川、湖沼など苫小牧の多様な「水の自然」を知ってもらうことを目的に開催した本展では、川の知られざる姿やそこに息づく生き物とのつながりを紹介した。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言のため会期は短縮され、来館者は1,000人台に留まったが、開催を通して自然への関心の向上がみられた他、準備段階におけるニホンザリガニの再確認等の成果があった。

(関連行事)

6月13日(土)・14日(日) 担当学芸員による展示解説 (全3回・参加者29名)

○「八王子千人同心と蝦夷地」

令和2年10月10日(土)～12月13日(日) (観覧者数：4,626名)

協力：七飯町歴史館／函館市中央図書館／八王子市郷土資料館／八王子千人同心旧交會／北海道大学附属図書館／無量山自然院大成寺／門別本町連合町内会稲荷神社維持委員会

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星
寛政12(1800)年に江戸幕府の命を受けて蝦夷地の警衛、開拓のために勇払と白糠に向かい、移住を試みた八王子千人同心をテーマにした展示。勇払への移住が試みられた

第一次幕領期（19世紀初頭）、道南地域へ移住した第二次幕領期（19世紀中期）における千人同心の事績とともに、当時の蝦夷地と諸外国との関係について紹介した。近年、北海道釧路市で発見された「原胤敦奉納鰐口」は、本展が一般初公開となった。

(関連行事)

10月25日(日)、11月8日(日)、12月13日(日) 展示解説会（全6回・参加者74名）

11月23日(月・祝) 「甲冑ストラップをつくろう」

講師：細川 正直（苫小牧市科学センター 元館長）（参加者19名）

○「紙とアート 吉田傑のダンボールといきもの」

令和2年10月10日(土)～12月13日(日)（観覧者数：4,626名）

協力：サケのふるさと千歳水族館

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星
ダンボールを素材に主として等身大の動物を制作する造形作家・吉田傑（1987～）は、北海道立近代美術館や神田日勝記念美術館など公立美術館への出品が相次いでおり、近年、若手ながら注目を集めている。「紙のまち苫小牧」ならではの企画となる本展では、当館所蔵の剥製と並置するなど趣向を凝らした展示を実施し、子どもから大人まで幅広い層から好評を博した。

(関連行事)

10月11日(日) 担当学芸員による展示解説会（全2回 参加者数：13名）

10月10日(土)・17日(土)・18日(日)、11月7日(土)・8日(日) 作者による公開制作

○「総天然色！考古資料のあざやかな世界」

令和3年1月9日(土)～3月7日(日)（来場者数：1,698名）

協力：恵庭市教育委員会／白老町教育委員会／千歳市教育委員会／函館市教育委員会／平取町教育委員会／八雲町教育委員会

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星
これまであまり着目されていない考古資料の色に焦点をあて、その鮮やかな「色」を考古学のみならず美術的な側面からもみていくことを目的に開催した。新型コロナウイルス拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置のため、観覧者数は伸び悩んだが、「色」に着目した考古学の展示は珍しく、連動企画として開催した美術の収蔵品展とあわせて来館者には好評であった。

(関連行事)

1月9日(土)、2月11日(木・祝)、3月6日(土) 学芸員による解説（全5回 参加者50名）

1月23日(土) まが玉をつくってみよう（参加者20名）

2月6日(土) 講演会「発掘調査からわかるアイヌ文化」

講師：森岡 健治（平取町沙流川歴史館 館長）（参加者53名）

3月6日(土) 講演会「ガラス玉が語るもの－丸い小さな世界から－」

講師：越田 賢一郎（札幌国際大学縄文世界遺産研究室 室長）

（参加者43名）

3月7日(日) 遺跡報告会（参加者26名）

③収蔵品展

○イクパスイー祈り捧げるものー

令和2年5月12日(火)～6月21日(日) (観覧者数：1,115名)

当館に収蔵しているアイヌのイクパスイについて展示を行った。本来は白老のウポポイ開設にあわせた展示であったが、延期となったこと、新型コロナウイルス拡大による緊急事態宣言に伴う休館などから来館者数は伸び悩んだ。当館に収蔵している300点近いイクパスイを初公開のものも含め紹介した。また、苫小牧アイヌ協会の協力で、同協会員が作成した現代のイクパスイも展示した。

○色と絵～彩のひみつ～

令和3年1月9日(土)～3月7日(日) (観覧者数：1,698名)

当館の所蔵作家から、色使いの特徴的な画家の絵画作品に焦点を当て、色ごとに分けて紹介した。

(関連行事)

1月16日(土)、2月13日(土) 学芸員による解説スライドトーク (全2回 参加者15名)

④中庭展示

中庭展示スペースを活用した、気鋭の現代作家による立体作品展示シリーズ

○Vol.14 艾沢詳子「Weatheringー風化ー」

令和2年5月12日(火)～9月13日(日) (観覧者数：4,446名)

紙とロウを主要な素材に、移民や精霊を彷彿とさせるヒト型のオブジェを制作のうえ、それらを無数に配置する作風をみせる艾沢詳子(1949～)。本展では、白いヒト型のオブジェの群れを用いた、波しぶきや泡などを彷彿とさせる作品を展示。あわせて、公立千歳科学技術大学青木広宙准教授の協力による光の演出効果を交えた「祈り」をテーマとする幻想的なインスタレーションも紹介した。

○Vol.15 磯崎道佳「世界には塵ひとつない」

令和2年10月10日(土)～12月13日(日) (観覧者数：4,626名)

多彩な表現形態や素材により、人々の好奇心を引き出し、新しい視点を発見する場を創造する磯崎道佳(1968～)。本展では、風にたなびく枝とビニール袋を中庭の屋上に設置し、それらを台座上の巨大なホウキと結びつけることで、「ダンス＝掃除」をおこなわせるというユニークな展示により、現代社会のあり方に対する深い思索とユーモアに満ちた磯崎の作品世界を紹介した。

(2) 教育普及事業

①通年プログラム（登録制の各種プログラム）

○美術博物館大学講座（対象：18歳以上 登録者数：67名）

苫小牧や胆振・日高、北海道に関する自然、芸術、歴史の各分野の講師による講演を実施した

日時	内容	講師名	参加者
R2. 6. 6	「千島アイヌから見た日露交流史」	鈴木 建治 (国立アイヌ民族博物館 研究員)	中止
R2. 7.11	「公文書館資料に見る、実現しなかった4つの“札幌オリンピック”」	高井 俊哉 (札幌市公文書館 元館長)	中止
R2. 8.22	「北海道の木彫り熊」	大谷 茂之 (八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 学芸員)	中止
R2. 9.12	「ロボットと大衆文化」	伊藤 隆介 (北海道教育大学岩見沢校 教授)	61名
R2.10.24	「北海道独自のアート表現を求めて」	吉崎 元章 (札幌文化芸術交流センター SCARTSプログラムディレクター)	46名
R2.11.28	「幕末のユウフツ」	佐藤 麻莉 (当館学芸員)	51名
R2.12.12	「写真にみる王子争議における王子主婦連の活躍、その意識改革」	岸 伸子 (札幌女性史研究会 会員)	49名
R3. 1.16	「タンチョウってどんな鳥？～市民で見守る絶滅危惧種～」	瀧本 宏昭 (公財)日本野鳥の会保全プロジェクト推進室保護区グループレンジャー)	47名
R3. 2.27	「大地の成り立ちが語る生物の共通点～北海道と南方の島(隠岐・三宅島)」	江崎 逸郎 (当館学芸員)	47名

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた入学式及び第1～3講は中止とした。

○子ども広報部「びとこま」(共催：NPO法人樽前artyプラス 登録者数：11名)

小中学生の子ども記者を募集し、展覧会の取材、撮影・記事作成を指導し、子ども広報紙「びとこま」を発行した。

令和2年5月～令和3年2月(年7回実施) 子ども広報紙発行：2回 総参加者数：87名

○古文書解読講座(対象：高校生～大人 登録者数 初級編：21名 中級編：16名)

古文書解読にあたり必要なくずし字解読の基礎や古文書から歴史を読み解く講座を開催した。

(初級編) 6月7日(日)・21日(日)、7月5日(日) ※5月23日(土)、24日(日)は中止

(中級編) 12月5日(土)・6日(日)

総参加者数：75名 講師：佐藤 麻莉

②体験プログラム（一般申込型普及事業）

○美術博物館祭2020 7月25日(土)～26日(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした

○ミュージアムラボ（対象：小学生～一般）

体験を通して自然、歴史や美術に親しむ行事を実施した。

日 時	内 容	講 師 名	参加者
R2. 9.22	縄文ポシエットをつくろう	岩波 連	11名
R2.11. 7	蚕のまゆから糸を取ってみよう	佐藤 麻莉	11名
R2.11.14 ・15	樹脂封入標本づくり	吉沼 利晃（苫小牧総合経済高校教諭） 江崎 逸郎	5名
R2.12.13	クリスマスカードをつくろう	大谷 明子	7名
R3. 1.10	筆で書いてみよう	沖津かな	6名

○無料観覧日

多くの方に美術博物館に親しんでもらうため、参加型イベントを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止および規模縮小した。

日 時	内 容	実施内容	参加者
R2. 5. 5	ゴーゴーミュージアム	中止	—
R2.11. 3	あみゅー秋のサンクスデー	イベントは中止し観覧のみとした。	340名

○自然観察会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

○歴史見学会

八王子千人同心の歴史にまつわる史跡をバスで巡った。

日 時	見 学 先	講 師 名	参加者
R2.10.18	だて歴史文化ミュージアム、有珠善光寺、 入江馬頭観世音碑	佐藤 麻莉・小杉 宇海	21名

③学校連携プログラム

○郷土学習

小学校社会科副読本「のびゆく苫小牧」と連動した、展示や資料を活用した学習を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から時間及び規模を縮小した上で実施。

9月～11月 対象：市内小学校24校3・4年生 受講児童：1,193名（ほか教職員69名）

○教員のための博物館の日（共催：国立科学博物館、日本博物館協会 協力：苫小牧教育研究所）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○アウトリーチ事業 みゅーじあむ in スクール

苫小牧出身の画家・山田啓貴氏を講師に迎え、美術の鑑賞授業を市内小中学校で行った。

11月5日(木) (苫小牧東小学校5年生43名)

11月19日(木) (ウトナイ中学校3年生128名) 受講者：合計171名

○職場体験

新型コロナウイルス感染拡大の影響で市内企業での受入が困難となり、学校より中止の申出があった。

○社会科自由研究発表会 (主催：苫小牧市教育研究会社会科部会)

新型コロナウイルス感染拡大による休校等で夏休みが短縮となったため、中止となった。

○学芸員実習の受入

学芸員資格取得のための実務実習を実施した。

8月18日(火)～28日(金)のうち8日間 実習生：7名

受入先：苫小牧駒澤大学、北海道教育大学岩見沢校、帝京大学、立正大学

④その他の教育普及事業

○出前講座・講師派遣

日 時	団 体	演 題	対応学芸員	参加者
R2.7. 2	樽前小学校3・4年生	鳥の観察	江崎 逸郎	12名
R2.7.11	のびゆく苫小牧をひもとく会	苫小牧の近代建築	武田 正哉	6名
R2.9.24	樽前小学校3・4年生	鳥の観察	江崎 逸郎	11名
R2.9.25	サンガーデン	苫小牧の歴史	武田 正哉	10名
R2.10. 8	日新小学校5年生	火山学習	江崎 逸郎	73名
R2.11. 5	縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座	苫小牧の大昔の暮らし	岩波 連	27名
R2.11. 8	文化財発見ツアー	苫小牧の大昔の暮らし	岩波 連	38名
R2.12. 1	北星小学校3年生	昔の道具と暮らし	武田 正哉 佐藤 麻莉 小杉 宇海	62名
R2.12. 9	長生大学	苫小牧の大昔の暮らし	岩波 連	82名
R3.2. 4	げんき倶楽部	錦岡の歴史	小杉 宇海	24名
R3.2. 9	豊川小学校6年生	職業を知る	江崎 逸郎	60名

(3) 資料の収集・保存

①資料の増加状況（過去5年分）

年度	考 古	歴 史	民 族	自 然	芸 術	合 計
28	(0) 45,204	(61) 49,627	(0) 1,805	(26) 42,366	(0) 1,357	(87) 140,359
29	(0) 45,204	(25) 49,652	(0) 1,805	(9) 42,375	(161) 1,518	(195) 140,554
30	(0) 45,204	(6) 49,658	(0) 1,805	(0) 42,375	(1) 1,519	(7) 140,561
元	(0) 45,204	(2) 49,660	(0) 1,805	(0) 42,375	(4) 1,523	(6) 140,567
2	(0) 45,204	(2) 49,662	(0) 1,805	(91) 42,466	(0) 1,523	(93) 140,660

※（ ）内は、各年度における資料の増加点数

②購入資料

月日	資 料 名	数 量	分 類
R3. 1. 14	レプリカ（ニホンマムシ、エゾサンショウウオ、エゾアカガエル）	3点	自 然 史

③寄贈資料

月日	資 料 名	数 量	分 類
R2. 5. 4	掛時計	一式	歴 史
R2. 5. 13	五月人形	一式	歴 史
R2. 12. 10	写真	64点	自 然 史
R2. 12. 17	さく葉標本（植物）	24点	自 然 史

④利用状況

貸 出 先	資 料	利用目的	月日
NPO法人むきばんだ応援団WEB制作事務局	静川遺跡の航空写真	WEBサイト「全国子ども考古学教室」で使用	データ提供
北海道胆振総合振興局	柏原18遺跡土偶・柏原5遺跡ヒスイの飾玉の写真、静川遺跡の航空写真	「北の縄文パネル展」で使用	データ提供
帯広百年記念館	カモ科鳥類資料（剥製）	令和2年度特別企画展「カモ・一万キロの旅」に展示	令和2年8月8日～9月13日
北海道文化遺産活用活性化実行委員会	静川遺跡 環壕の発掘調査状況写真	2020年度「地域の文化財総合ガイド養成講座」募集要項に使用	データ提供
国立アイヌ民族博物館 宮地 鼓	白布切抜文衣（カパラミプ）	道立北方民族博物館友の会季刊誌 Arctic Circle 2020年6月刊行に使用	データ提供
株式会社 文学通信	川上澄生「樽前山秋景」	国立民俗博物館発行「REKIHAKU」創刊号に掲載	データ提供

貸出先	資料	利用目的	月日
集英社 週刊ヤングジャンプ編集部	煙草入れ(タンパクオブ)・矢毒入れ(スルクオブ)	漫画「ゴールデンカムイ」にてアイヌ文化表現描写をするため	データ提供
北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部	丸木舟	「第1回グリーンインフラ大賞」応募資料に掲載	データ提供
国際基督教大学アジア文化研究所 非常勤助手 小栗宏太	丸木製軸工場写真	紀要「アジア文化研究47号」所収論文へ掲載	データ提供
(公財)アイヌ民族文化財団	施設(外観・アイヌ展示風景)の撮影	道内のアイヌ文化関連施設紹介映像を制作しJR札幌駅西コンコース『北海道さっぽろ「食と観光」情報館』内で上映	データ提供
苫小牧市立美園小学校	昔の道具資料25点	3年生の社会科において、昔の道具を調べる学習を行う	令和3年1月26日～27日
株式会社 札幌映像プロダクション	アイヌの熊送りの儀式の16ミリフィルム映像	DVD「アイヌの生活文化再現マニュアル 川の魚の料理～平取地方～」に掲載	データ提供
公益財団法人アイヌ民族文化財団	イクパスイ2点	アイヌ語発信講座(動画講座)において使用	データ提供
株式会社 帝国書院	マンモス模型(写真)	「社会科 中学の地理・歴史・公民」準拠テスト問題例 WEB版に掲載	データ提供
株式会社 第一学習社	マンモス模型(写真)	文部科学省検定高等学校地理歴史科「日本史探究」教科書に掲載	データ提供
札幌市円山動物園	美々鹿肉缶詰製造所缶詰(複製)	エゾシカ舎での来館者向け掲示物で使用	データ提供

(4) 調査・研究活動

学芸員がテーマごとに資料収集・調査研究を実施した。

氏名	分野	研究テーマ
細矢 久人	美術	苫小牧および北日本における近現代美術
江崎 逸郎	自然史	樽前山及び勇払原野一帯の生物相とその変遷
岩波 連	考古	動物考古学
沖津かんな	書	苫小牧の書道史
立石絵梨子	美術	日本近現代美術、美術館教育
佐藤 麻莉	歴史	日本近世史、北方史
大谷 明子	美術	美術史
小杉 宇海	歴史	日本近世史、昭和史

(5) 広報・CS向上

①印刷物の発行

逐次刊行物

年報第7号、紀要第6号、美術博物館だより第8号を発行した。

その他印刷物

年間スケジュール1件、各種展覧会の広報印刷物、特別展「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」記録集を作成した。

②各展覧会におけるポスター・チラシの配布

特別展・各企画展においてポスター・チラシを作成し、市内外に郵送もしくは手持ちで配布した。展覧会ごとに配布先・配布枚数を調整し、効率的に周知できるように工夫した。

③美術博物館公式HPの運営

常に最新の情報が掲載されるように展覧会・行事ごとに随時更新をおこない、情報発信に努めた。

④美術博物館公式Facebookの運営

2018年12月より、公式Facebookの運営を開始した。現在は週2～3回ほど更新し、展覧会や行事の案内のほか、常設展示や展覧会の見どころも写真を添えて紹介し、当館に親しみを持っていただけるような広報を目指している。

⑤美術博物館公式Twitterの運営

2020年2月より、公式Twitterの運営を開始した。Facebookとは利用者層が異なり、拡散に効果が期待できるため導入した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う閉館では、HPとあわせて、Facebook・Twitterも活用することにより即時性のある情報を伝達することができた。

⑥苫小牧市公式LINEの活用

苫小牧市民の登録者が多いLINEを利用し、展覧会情報等を発信している。

(6) 市民協働

①市内の歴史、美術等に関連のある団体を当館の登録団体として支援、協働を行った。

- ・ 苫小牧市博物館友の会の会議に出席し、助言等を行った。
- ・ 苫小牧市美術館友の会の事務局会議の会場提供、会議の出席等を行った。
- ・ 郷土文化研究会の会議会場の提供、市民公開講座への協力、会議の出席等を行った。
- ・ 苫小牧縄文会の総会や講演会場の提供を行った。

②ボランティア研修事業（登録者数：36名、総参加者数：99名）

特別展、企画展のレクチャー、バスレクなど研修会を5回実施した。

4月17日(金)、7月17日(金)、10月9日(金)、1月8日(金)、3月21日(日)

(7) 埋蔵文化財の保護

市内の開発工事（各種開発確認・開発区域詳細）に伴う遺跡の有無を確認するための調査
遺跡パトロールの実施

文化財保護法に基づく事前協議・調査・立会 26件

遺跡の所在に関する問合せの対応 141件

市内遺跡発掘調査等事業の実施

美沢地区発掘調査 6月6日(土)～9日(火)

美沢地区試掘調査 7月21日(火)～7月23日(木)

苫東柏原地区試掘調査 9月1日(火)～10月13日(火)

(8) 展示室貸出事業

苫小牧美術協会 春季展 3月31日(水)～4月4日(日) 来館者：515名

(9) 大会への参加事業・研修

北海道ミュージアムマネジメント研修会 11月5日(木) 札幌市

日胆地区博物館協議会 総会 5月20日(水) 書面会議

研修会 中止

北海道博物館大会 中止

全国美術館会議 学芸員研修会 3月5日(金) オンライン参加

北海道美術館学芸員研究協議会 中止

(10) 市史編纂事業

編さん審議会、事務局会議を実施した。

担当（兼務）：武田 正哉・佐藤 麻莉

2 入館者

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人	大人	965	524	962	1,191	1,492	1,422	1,510	1,485	912	801	978	998	13,240
	高大	5	2	11	22	54	22	20	37	13	21	19	22	248
	小中	53	95	202	501	590	587	249	329	122	131	85	176	3,120
	幼児	25	39	81	157	349	147	95	179	89	59	80	84	1,384
	小計	1,048	660	1,256	1,871	2,485	2,178	1,874	2,030	1,136	1,012	1,162	1,280	17,992
団体	大人					2	28	76	66	5	4	2	2	185
	高大					17	19	11	4					51
	小中						334	455	712	57	75			1,633
	幼児					27			2			14	11	54
	小計					46	381	542	784	62	79	16	13	1,923
合計	1,048	660	1,256	1,871	2,531	2,559	2,416	2,814	1,198	1,091	1,178	1,293	19,915	

※特別展、教育普及事業参加者等を含む。

※展覧会関連事業、教育普及事業参加者は個人に含む。ただし、郷土学習は団体参加者に含む。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4/20(月)～5/11(月)に臨時休館を実施した。

3 令和2年度決算

(1) 歳入

区 分	予算現額	決算額	説 明
使用料（入館料）	3,003,000	2,283,860	常設・企画展観覧料 1,387,160 特別展観覧料 896,700
使 用 料 （行政財産使用料）	280,000	140,621	展示室・設備使用料 103,200 自動販売機電気料金 37,421
受 講 料	130,000	80,600	美術博物館大学講座 80,600
社 会 教 育 費 国 庫 補 助 金	1,270,000	1,480,000	市内遺跡発掘調査等事業 1,480,000
市民文化芸術振興 基 金 繰 入 金	4,499,000	4,000,000	市民文化芸術振興基金繰入金 4,000,000
雑 入	0	1,001,500	図録販売収入 1,500 北海道文化財団助成金 1,000,000
合 計	9,182,000	8,986,581	

(2) 歳出

区 分	予算現額	決算額	説 明
報 酬	153,000	109,800	美術博物館協議会委員経費 113,920
共 済 費	0	0	美術博物館管理運営経費 27,852,413
賃 金	0	0	{ 燃料費 3,495,426 電気・上下水道料 4,037,697 管理運営委託料 15,990,835 その他管理運営費 4,328,455
報 償 費	437,000	180,000	
旅 費	1,900,000	766,900	
需 用 費	16,469,000	15,588,133	
役 務 費	1,096,000	1,044,442	美術博物館活動及び調査研究経費 3,313,288 勇武津資料館管理運営経費 3,016,087
委 託 料	27,109,000	26,908,107	{ 燃料費 205,909 電気・上下水道料 403,747 管理運営委託料 1,870,115 その他管理運営費 536,316
使 用 料 及 び 賃 借 料	1,363,000	958,605	
原 材 料 費	28,000	26,349	遺跡発掘調査等事業費 1,780,094 美術博物館企画展示事業費 4,415,408
備 品 購 入 費	330,000	330,000	美術博物館特別展事業費 4,447,946
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	76,000	75,000	美術博物館祭事業費 0 アイヌ文化関連展示整備事業費 1,048,180
合 計	48,961,000	45,987,336	

4 令和3年度予算

(1) 歳入

区 分	当初予算額	説 明
使 用 料	3,015,000	駐車場使用料 12,000 観覧料 1,753,000 特別展観覧料 1,250,000
行政財産使用料	245,000	展示室・設備使用料 245,000
	35,000	自動販売機電気使用料 35,000
受 講 料	130,000	美術博物館大学講座受講料 130,000
社 会 教 育 費 金 庫 補 助 金	1,270,000	遺跡発掘調査等事業費補助（文化庁） 1,270,000
市民文化芸術振興 基金繰入金	4,499,000	市民文化芸術振興基金繰入金 4,499,000
ア イ ヌ 政 策 金 推 進 交 付 金	862,000	アイヌ文化関連展示整備事業費 862,000
一 般 財 源	38,497,000	
合 計	48,553,000	

(2) 歳出

区 分	当初予算額	説 明
報 酬	153,000	美術博物館協議会委員経費 160,000
共 済 費	0	美術博物館管理運営経費 27,319,000
賃 金	0	{ 燃料費 2,840,000 電気・上下水道料 3,694,000 管理運営委託料 16,075,000 その他管理運営費 4,710,000
報 償 費	633,000	
旅 費	1,387,000	
需 用 費	15,354,000	
役 務 費	1,250,000	勇武津資料館管理運営経費 3,255,000
委 託 料	28,551,000	{ 燃料費 173,000 電気・上下水道料 446,000 管理運営委託料 2,026,000 その他管理運営費 610,000
使 用 料 及 び 借 料	779,000	
原 材 料 費	28,000	遺跡発掘調査等事業費 2,541,000
備 品 購 入 費	330,000	美術博物館企画展示事業費 4,038,000
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	76,000	美術博物館特別展事業費 5,615,000
		美術博物館祭事業費 499,000
		アイヌ文化関連展示整備事業費 1,078,000
合 計	48,541,000	

5 施設の概要

(1) 沿革

- 昭和35年 6月 市立苫小牧図書館に郷土博物室設置
- 45年 1月 苫小牧市青少年センターを建設し、博物展示部門・科学展示部門設置
- 48年 11月 苫小牧百年を記念して、郷土博物館建設方針決定
- 12月 郷土博物館資料収集調査委員会設置
- 56年 11月 苫小牧市博物館基本構想（案）がまとまり、建設準備委員会を設置
- 57年 1月 建設準備委員会で埋蔵文化財調査センターの併設を審議
- 58年 3月 博物館建設の基本計画決定
- 11月 建築工事着工
- 59年 11月 展示工事着工
- 60年 11月 開館、第1回特別展「苫小牧地方の有形文化財」開催
- 61年 3月 第1回博物館協議会開催
- 62年 7月 博物館・埋蔵文化財調査センター、昭和62年度建築業協会賞受賞
- 63年 7月 常陸宮両殿下来館、博物館友の会設立
- 9月 第12回特別展「陶磁の東西交流展」開催
- 平成元年 6月 入館者10万人達成
- 9月 高円宮両殿下来館、郷土学習開始
- 2年 8月 開館5周年記念第18回特別展「紙の文化史展」開催
- 3年 7月 第30回北海道博物館大会開催
- 4年 9月 入館者20万人達成
- 5年 2月 第25回特別展「マオリ文化展」開催
- 6年 12月 平成6年度北海道博物館活動交流推進会議開催
- 7年 7月 開館10周年記念特別展「大昔の苫小牧～よみがえる古代人のくらし～」開催
- 8年 3月 「二つの島のかげはし～苫小牧市博物館所蔵品展～」をニュージーランドネーピア市ホークスベイ博物館にて開催。同月、入館者30万人達成
- 9年 5月 日胆地区博物館等連絡協議会設立総会開催
- 10年 5月 とまこまい市制50周年記念「シャガールとパリの画家たち展」開催
- 7月 とまこまい市制50周年記念「出光美術館所蔵ジョルジュ・ルオー展」開催
- 11年 8月 第43回特別展「日光東照宮宝物展～姉妹都市日光の横顔～」開催
- 12年 8月 第44回特別展「八王子千人同心と幕末の勇武津」開催
- 13年 9月 21世紀記念事業「名品にみる武家の美と心～文化人井伊直弼の世界」開催
- 14年 8月 苫小牧市民文化芸術振興条例制定記念事業、トヨタ自動車北海道(株)創業10周年記念事業「印象派とその歩み展～感じたままに 瞬間を描く～」開催
- 15年 7月 第47回特別展「川上澄生の世界～南蛮文化・文明開化・苫小牧～」開催
- 16年 4月 トヨタ自動車北海道(株)「東京藝術大学に集った画家たち展」開催
- 7月 第48回特別展「砂田友治の画業～人間賛歌の造形をめざして～」
- 17年 8月 開館20周年記念特別展「のぞいてみよう恐竜時代～クビナガリュウが見た北海道～」開催
- 18年 1月 浩宮皇太子殿下下来館
- 7月 第50回特別展「昭和のくらし～我が家にテレビが来たころ～」開催

- 9月 出光美術館所蔵「中国・滋州窯～なごみと味わい～」開催
- 19年 7月 第51回特別展「マッチ・ワンダーランド～歴史・デザイン・喫茶店文化～」開催
- 9月 トヨタ自動車北海道(株)創業15周年記念「エコール・ド・パリ～パリを愛した画家たち展」開催
- 20年 2月 入館者60万人達成
- 9月 市制60周年記念出光美術館所蔵「板谷波山展」開催
- 21年 7月 第53回特別展「縄文美の極み～亀ヶ岡文化～」開催
- 22年 8月 開館25周年記念特別展「紙をつくる 紙でつくる」開催
- 23年 7月 ウトナイ湖ラムサール条約登録記念特別展「鳥の世界」開催
- 24年 7月 トヨタ自動車北海道(株)創業20周年記念
「光から夢をたどって～印象派からエコール・ド・パリまで」開催
- 24年 8月 改修工事のため休館
- 25年 4月 博物部門常設展再オープン
- 25年 7月 苫小牧市美術博物館開館、開館記念特別展「出光美術館所蔵美術展」開催
- 26年 7月 開館1周年記念特別展「青森県立美術館コレクション展～アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー」開催
- 27年 9月 特別展「花ひらく近代洋画の世界」開催
- 28年 7月 開館3周年記念特別展「Art and Air 一空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」開催
- 29年 7月 特別展「トヨタ自動車北海道株式会社25周年事業 水から未来を紡いで 20世紀美術の創造」開催
- 9月 特別展「柳原良平の海・船・港」開催
- 30年 7月 特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」開催
- 令和元年 7月 特別展「第一洋食店の100年と苫小牧」開催
- 令和2年 7月 特別展「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」開催

(3) 組 織 (令和2年4月1日現在)

①美術博物館協議会委員

会 長 揚妻 直樹 (北海道大学苫小牧研究林 林長)
副会長 林 廣志 (苫小牧写真連盟会長)
委 員 石川 一美 (苫小牧市明野小学校 校長)
居島恵美子 (苫小牧市美術館友の会 事務局次長)
大澤智恵美 (苫小牧市PTA連合会 副会長)
奥本 政一 (苫小牧植苗中学校 校長)
金田 正弘 (苫小牧市博物館友の会 副会長)
菊地 綾子 (フリーランスライター (市民公募))
橋爪 好伸 (苫小牧郷土文化研究会 理事)
山田 利一 (苫小牧駒澤大学 教授 (市民公募))

②職 員

館 長 (学芸員・歴史)	武田 正哉
主 査 (再任用)	遠藤 久雄
主 査 (美術)	細矢 久人
学芸員 (自然史)	江崎 逸郎
学芸員 (書)	沖津かんな
学芸員 (美術)	立石絵梨子
学芸員 (考古)	岩波 連
学芸員 (美術)	大谷 明子
学芸員 (歴史)	佐藤 麻莉
学芸員 (歴史)	小杉 宇海
主 事 (再任用)	吉田 由恵
受 付 (会計年度任用職員)	長谷川一枝
	吉村みどり
	阿部 幸子

設備管理・清掃 (委託)

苫小牧市美術博物館 年報

第8号（令和2年度）

（ 苫小牧市博物館 館報 通算19号 ）
（ 苫小牧市博物館 年報 通算36号 ）

発行日 令和4年3月
編集・発行 苫小牧市美術博物館
〒053-0011
北海道苫小牧市末広町3丁目9番7号
TEL 0144(35)2550
FAX 0144(34)0408
印刷 (株)とまみん印刷センター